ゆすまいる

“ケアハウスゆるり クッキーづくり”

“この後ろ姿は？？”

Cover’s Story 1.

2021

3 月

4 月

増刊号

“お雛様と一緒にひなまつり”

“鬼は外！福は内”

Cover’s Story 2.

もくじ

Number. 39

1～3 地域福祉コーディネーター活動報告

4 地域活動推進事業

5 梼原町共同募金委員会より

6 福祉教育

7～8 複合福祉施設 YURURI ゆすはら

9～10 地域共生社会（第 1 回）

11 輝く梼原人！み～つけたっ！

12 令和 3 年度事業計画･当初予算

13 防災 つむぎあい

14 リユースゆすはら

掲示板 Cover‘s story 1 2
無料法律相談令和 3 年度予定
あとがき

梼 原 町 社 協 広 報 誌

ネーター　活動報告

四万川区・西区　　担当：玉川　富美恵

神の山部落では、２月４日、集会所において、防災座談会を行いました。高齢化率 100%の地域で「集まることさえできたらなんとかなる。」を合言葉に自助共助の意識を高め合っています。危機管理係防災アドバイザーから、地域の地盤の強度や非常時持ち出し品について学習しました。

また、**茶や谷**部落 “ゆめクラブ”では、コロナ禍でも感染拡大に十分配慮し、参加者全員のお誕生月にお祝いをすることができました。
また、災害時の避難については「自宅待機が一番安全」という方も多いなかで「最小限の持ち出し品て何やろ。」「寝床にスリッパも知っちゅうけど置いてない。」という住民のために、災害時に向けた備えの必要性について意識向上を図るために座談会を行いました。

～四万川区のつどい～

四万川宅老所こんにゃくづくり

文丸やすもう屋会

上松いきいきでは「この地域でつどいを継続してもらいたい。」という参加者の思いはあるが運営者の担い手不足や新たな参加者増につながらない現状があります。そこで「集いの場へ、まずは 1 回参加をしてもらえたら。」との思いを形にした招待状を作成しました。

２月３日に運営者と一緒に訪問し招待状をお渡しし、活動内容や趣旨を説明しました。
若手高齢者には、つどいの応援団として力を貸して欲しいことも伝え、地域の健康づくりと交流の場の支え合いの仕組み作りを行っています。

また、**上成**部落では防災担当を中心に班長と避難方法について住民同士で支え合いの仕組みを作りたいという思いはあるが、「本人家族の同意がなければ実施しづらい。」「何かあった時は責任を誰がとるのか。」など地域から様々な不安の声があるため慎重に取り組んでいます。2 月 23 日の部落会に参加し防災への意識を高めてもらうことを目的に炊き出し訓練の働きかけ・地域の地盤のレッドゾーン、イエローゾーンについて学び、避難所建設に向けた検討会を行いました。

ふらっと西区

西区スポーツ推進

ちょこっと座談会テーマ：コロナ

コロナ禍において普段は当たり前のことが大切なことだと、たくさん気づくことができました。
・衛生面に気を付ける。
・家族・友人・地域のありがたみ、大切さ
・外出、会話（楽しみ・生きがい）
・笑うこと　　など…
実施場所：竹の薮 100 歳体操・西区いきいき（合同）・上松いきいき

東区・初瀬区　　担当：西村 悠

東区では、地域から「また茶話会をしたい、宅老所を復活させたい。」という声を受け、区長・民生委員等と情報共有・茶話会開催検討に向け話合いを行いました。地域の思いを少しでも形にできるように、対象者 154 名に集いの場・居場所についてのアンケート調査を実施しました。話を伺う中で、「こんなことならできるよ。」「集まる場所があることは高齢者にとっては健康につながる。」「東区から新しい取り組みをして他の区へ広げよう。」などといった前向きな意見もありました。

７月 28 日には「第４回東区茶話会」を実施し、コロナ対策をしっかり行ったうえで、アンケートの結果報告と宅老所についての意見出しを行いました。「高齢になってからの引きこもり予防に向けても集いの場は必要だと思う。以前の宅老は利用者の生きがいになっていた。宅老は必要だと思うので、新しい形でやってはどうか。」などといった意見が出ました。

宅老所を再開するにあたって様々な思いを丁寧に聞きながら、話合いの場の後方支援を行いました。

協力者に集まっていただいて、宅老所再開に向けて検討しました。「『宅老所を復活させたい』という少人数の思いからでも宅老所を必要とする人がいるならどうにか形にしたい。」という思いで区長を中心に協力者が何度も話合いを重ねて、宅老所の実施が決まりました。話合いの中では、食事は「雲の上食堂」を利用することが決まり、まずは月１回からはじめてみようということになりました。また、赤い羽根共同募金当年度枠を活用して再開に向けた備品購入することが決まり、必要な物品について検討しました。参加者より「宅老所というとお年寄り、介護施設というイメージがある。自分たちで自主的にやることにサポートする場所で、お年寄りだけではなく子供から子育て世代なども集まり、世代間交流できる場になったら良いので、宅老所よりも「サロン」の方が良いかもしれない。」という意見があり、サロンの名称を募集し、サロン名は“えくぼ”に決定しました。東区の集いの場の１つとして、みなさんの大切な場所になればいいなと思います。

仲久保・初瀬本村・佐渡の３部落（西初瀬連絡会議）では、コロナ対策をして避難訓練実施に併せて昨年度の座談会と避難訓練のフィードバックと防災用品の紹介・体験、非常食の紹介を実施しました。「コロナが心配」という声もあり、予定していた非常食の試食会は行いませんでしたが、防災用品の体験では参加者は興味津々で体験し、防災への意識がさらに高くなりました。

来年度の避難訓練では『今回紹介したキャリーフ（担架）を借りて実際に避難訓練で使ってみる』『炊き出し訓練を実施する』計画を立てました。また、３部落の代表と高齢者合宿施設の防火管理者との打合せにより、各部落で安否確認の方法などを話合い、支え合いの仕組みを考えていこうと計画を立てました。

老人クラブ『健老会』では、会長の体調不良もあり負担が大きくなってきているという現状がありました。老人クラブ事務局と若手会員を巻き込んで今後の体制について話合いを行い、連絡係をつくり会長の負担軽減を図ることが決まりました。連絡係が動いてくれているので、会長の負担軽減につながりました。また、コロナもありイベント等の参加には至っていないが、みんなで支え合いながら、意欲も高まっています。今後も会長の思いを聞き取りながら継続して後継者育成についてや生きがい・やりがいにつながる活動を一緒に考えていきます。

ミニミニ芸能大会で
けん玉大会をしたよ

令和２年度　地域福祉コーディネーター　活動報告

越知面区・松原区　　担当：山口　あゆみ

田野々部落で９月27日に、**太田戸ミニいきいき**で11月21日に災害発生時の備えについて座談会を行いました。

災害が起こった時のために【備えていること・備えたいけど出来ていないこと】を書き出して頂き、活発な意見交換がされました。「食料はなんとかなる・備えている」という意見もありましたが「家具の固定が出来ていない」

「耐震診断や耐震補強がまだ」などの意見も聞かれました。

寝室での安全の確保などできることから取り組んでいくことになりました。

横貝部落では３月20日に防災の勉強会を行いました。

普段、防災について意識する機会がなく、この勉強会を通して、防災を考えるきっかけづくりができました。

越知面デイでは「コロナ禍での生活の変化」について座談会を行いました。「県外の子供に会えない」「行きたいところへ行けない」など思うような外出ができず寂しさや不安もありますが、見方を変えれば「次に会う楽しみが出来た」「集いの場があったら行きたい」との意見も出ました。また、『おちめん秋祭り』の開催支援や老人クラブのお弁当配布、集落活動センター『チーム・シルク』の訪問販売、民生委員さんとの同行訪問などをさせて頂き、地域活動の重要性と繋がりを感じる事が出来ました。コロナ禍で思うように地域で集えない現状もありますが、今後の活動について地域の皆さんと一緒に考えていければと思います。

島中部落にて11月21日に拡大地図を活用した図上訓練を実施し、地域の危険箇所や避難時に気になる人、気をつけができる人を書き出しました。

「必要と思っていてもなかなか考える機会がない」「これからも考えていかんといかん」との意見も聞かれ、短い時間での開催ではありましたが、地域での支え合いの重要性の確認を行いました。

また、令和元年度に区内75歳以上を対象に実施した生活課題アンケートから見えた課題「ゴミの出し方がわからない。」を解消しようと、７月１日サテライトデイサービス開催時、梼原町役場環境推進係を招き、ゴミ出しの勉強会を実施しました。

アンケートから見えてきた困りごと解決へ向けて**松原区**が主体となり、部落代表者会などで話し合いを重ねました。その後、「地区粗大ごみ収集日に合わせて寝具収集からやってみよう！」という事になり、２月13日の回収日に寝具収集を行いました。

参考チラシ作成や事前回収などは区の役員が協力し、当日は72枚の寝具が回収されました。地域の困りごとを区が協力して解決する取り組みが始まっています。

また、健康維持のため、百歳体操やグランドゴルフ、ゲートボールも行われています。グランドゴルフやゲートボールは野外活動ということもあり、参加者も増え練習も盛んになっています。

コロナ禍ではありましたが、地域がやりがいや支えあいについて考える機会をもつことができ、活動につながった１年になりました。

地域活動推進事業
令和２年度活動報告

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

（赤い羽根共同募金助成事業）

令和２年度は高知県共同募金会より 25 万円の助成金を受け、住民の皆さんの交流の促進や集いの場づくり等の活動を応援することを目的に、町内の１０団体に対して合計 200,058 円の配分をさせていただきました。地域の拠点整備活動や集いの場づくり、百歳体操の開催など様々な活動を通して事業の目的を達成することができました。今年度はコロナの影響もあり、みんなで集まれない時期もありましたが、「集まりたい。」という声も多く、コロナ対策をしっかりとしたうえで様々な団体が活動し、地域の支え合いや健康づくり、やる気などに繋がりました。地域の方からは、「集えることへの喜びを感じた。」という声も聞かれました。

＜活動紹介＞

越知面グラウンドゴルフ愛好会

収納バックやマーカーを購入し、実践的な練習ができるようになった。

太田戸いきいき百歳体操

百歳体操、婦人会の方が調理してくれた昼食を囲んでの食事会と社協による社協事業説明と防災学習を実施した。

＜写真３ページ掲載＞

鷹取・明野地１００歳体操クラブ

筋力アップに向けて重りと重りカバーを購入。「動ける時には動きよらないかん。」と皆さんの意識も高くなってきている。

西初瀬連絡会議

避難訓練と防災用品の紹介・体験を実施した。非常食を購入し、「試食会」を行う予定だったが地域からも心配される声もあったことから、試食会は中止にした。

＜写真２ページ掲載＞

西区ボッチャ競技実行委員会

今年度はボッチャの用具を購入し新たに楽しみと親睦を深めるためにボッチャの講習会を行った。

＜写真１ページ掲載＞

松原ゲートボールクラブ

用品が古く修理しながらの活動であったため今回公式ボールやゲート、ゼッケンを購入した。閉じこもり予防や助け合いにも繋がっている。

中平いきいきクラブ（百歳体操）

地域の方から提供頂いた DVD プレイヤーが使用できなくなり、新しいものが必要になったため、購入した。地域で集えることに喜びを感じている。

太郎川百歳体操クラブ

筋力アップに向けて重りと重りカバーを購入。90 代の参加者を筆頭にますますやる気になっている。

神の山部落

災害時に集会所（避難所）に安心して避難する体制整備の一つとしてだるまストーブを購入し備えた。

＜写真１ページ掲載＞

文丸やすもう屋会

百歳体操と同時に実施しているカフェで情報共有するなど大切な集いとなっている。今年で３年目となり習慣になってきたため重りを購入した。

＜写真１ページ掲載＞

梼原町共同募金委員会 令和2年度 活動報告

令和2年度の **募金総額は、797,608円でした。ご協力ありがとうございました。**

災害義援金は、合計 13,072円。 高知県共同募金会を通じて 中央募金会、福島県、長野県、大分県、福岡県、佐賀県、鹿児島県、熊本県、岐阜県、宮城県の各県共同募金委員会へ送金をさせていただきました。

赤い羽根共同募金の配分金を使って 今年度は6事業が実施されました

まごころ弁当配食事業	【実施主体】まごころ弁当実行委員会	【予算】320,000 円
地域活動推進事業	【実施主体】梼原町社会福祉協議会	【予算】250,000 円
弁護士による無料法律相談会	【実施主体】梼原町社会福祉協議会	【予算】 90,000 円
地域支え合い事業	【実施主体】梼原町シルバー人材センター	【予算】 70,000 円
ボランティアよつば会独居高齢者訪問事業	【実施主体】梼原町ボランティアよつば会	【予算】 70,000 円
認知症予防と家族ケア	【実施主体】げらげら家族会	【予算】 50,000 円

まごころ弁当実行委員会
地域の皆さんとふれあいを楽しみながらお弁当をお届けしました。

梼原町ボランティアよつば会
メンバー21名が、ちらし寿司とおまんじゅう2個を125名にお届けしました。

梼原町シルバー人材センター
毎月、35名の方に手作りの絵葉書に季節の一言を添えて贈っています。

地域活動推進事業・・・みなさんの地域・団体でも利用してみませんか？

この事業は赤い羽根共同募金の配分金を利用し、社会福祉協議会が事務局として取りまとめて地域の皆さまに運用していただいています。

利用できる金額は3万円を上限として、住民の活動・交流促進を目的とした助成金です。部落内での活動だけではなく、地域のサークル活動でも助成が受けられます。

助成金申請の手続きなどについては、社会福祉協議会の地域担当職員にお声掛けいただくか、社会福祉協議会事務所窓口へ直接お問い合わせください。

- 地域を盛り上げる集まりをやってみたい！
- 地域のみんなで使えるものを購入してみたい！ など

「**やってみたい！**」に助成金が使えるかもしれません。
お気軽に梼原町社協までご相談ください。

坂本川部落
「わらじづくり」を通して、文化の継承と世代間交流を行った

太郎川 100 歳体操
おもりを購入し、90代の参加者を筆頭にますますやる気になっている

福祉教育

令和２年度の福祉教育のテーマ【福祉の視点で『防災』『減災』を考える】

福祉教育ってなに？？

子どもたちの
福祉の学びを支援

住民主体の
「地域福祉」をすすめる

「福祉教育」と聞くと子どもたちのための学びなのでは？と思うかもしれませんが、実は学校だけでなく地域においても福祉人材教育、ボランティア学習、地域福祉活動への関心を高める活動を推進しています。

取り組み

社協では、梼原学園７年生への高齢者疑似体験に関わらせて頂いています。
今年度は８年生の総合学習の時間を活用し、認知症サポーター養成講座と、災害学習をコーディネートさせていただきました。高齢者疑似体験の経験を深め、自分たちにできる事、地域で活かせることを考えてもらう機会になったのではないかと思います。

１２月１１日（金）認知症サポーター養成講座

梼原町役場保健福祉課職員より梼原町の現状説明、認知症キャラバンメイト（※）より認知症の基礎についての説明、体験をもとにした寸劇を見た後で、グループワークを行いました。その中で印象に残ったことや、自分たちにできることなどを話し合いました。

『認知症の理解が大切』『暖かく優しく見守る』『若くして認知症になったらどうしたらいいか？』など積極的な発言が見られました。

※認知症キャラバンメイト…認知症サポーター養成講座の講師

１２月１４日（月）非常持ち出し品のチェック

梼原町役場危機管理係職員と防災アドバイザーを講師にむかえ、梼原町の防災の取り組み・自分たちにできる備え・非常持ち出し品のチェックリストを活用したグループワークを行い自分たちが必要だと思うものを 10 個出しました。各班で必要と思うものに違いがあり、いろいろな意見が出ました。また iPad を使い、気象庁や高知県防災マップを見て情報収集の方法についても学びました。
また、災害時のボランティアの役割について社協から説明させていただきました。

１２月１８日（金）　避難所を想像

前半は避難所の生活を想像するために危機管理係が持参した、間仕切りやトイレを実際に組み立てた後、南海トラフ地震についての説明を受けました。

後半は梼原町役場保健福祉課保健師より、災害後の生活の説明を受け、その後、避難所で気をつけが必要な人はどんな人がいるか、また自分たちになにが出来るかを一緒に話し合いました。

《学習後の感想》

・認知症、ボランティア活動、防災についての学習が繋がっていて一つでも多くの知識を身につけておくことで、将来自分たちが出来ることも増えるということがわかった。

・認知症の人たちの事を「かわいそう」と思うのではなく、「助けてあげよう」という気持ちでいたいです。

・避難に時間のかかる人を助けたい。

・家族で避難場所や　持ち出し品について話し合っておかないといけないと思った。

ケアハウスゆるりだより

令和２年度を振り返って～

令和２年度は新型コロナウィルスの流行の為、利用者様には外出制限、ご家族様には面会自粛をお願いした１年でした。遠方への外出が難しく、施設内で過ごしていただく時間が多くなりました。
そんな中でも、今ある身体・認知機能をおとすことのないよう、さまざまな活動を行ってきました。

ボールを使うゲームです！
ゲームに真剣な利用者様。職員も盛り上がり、疲れる時もよくありますが楽しい時間です(*‘∀‘)

創作活動で折り紙を使い、あじさいを作りました。手先が器用な利用者様が多く、職員の方が教えてもらいました。勉強になります。

時には、施設の近くでのんびりとゆっくり過ごします。外の景色を見ながら利用者様同士の雑談も弾みます♪

季節の行事も施設内で行いました。職員が色々企画して利用者様には季節感を十分感じて頂けたと思います。

デイサービスゆるりだより

昨年４月

現在

「新型コロナウイルス」が流行して１年が経ちますね。
デイサービスでも飛沫感染防止のため、マスク着用の徹底や、同じ向きに座るなど環境面でも注意してきました。
　現在では、向き合って座ることがないように互い違いに座って頂いたり、間仕切りの設置など行っており、ご利用者の皆様にもご協力頂いております。

手作り紙コップけん玉

豆つまみ

　お箸で豆をつまんで違う入れ物に入れる、という簡単な作業に思えますが意外と難しいですよ。
　デイサービスでは豆より大きいマカロニを使って行いました。
　手や指の細かい動きをするので、集中力と注意力を上げる事ができます。

今年度、梼原町の「ゆすはらユニバーサルまちづくり計画」（「障害者計画」「第6期障害者福祉計画」「第2期障害児福祉計画」）が策定されました。（計画期間 R3 年度～R5 年度）ここでめざす『共生社会』について考えていきます。『共生社会』とは・・・高齢者・障がい者・子どもなど地域の全ての人々が、一人ひとりの暮らしと生きがいを、ともに創り、高め合う社会のこと。 困難を持つあらゆる人を地域で支えるための仕組みです。

初回は、先天性軽度弱視と眼振という障がいを抱えながらも、町内で幅広く活躍されている西町在住の宮本友和さんにお話をお聞きしながら「地域共生」について考えを深めました。

宮本さんの『感謝』の年表

- 誕生～保育園（5 年間）
- 梼原小学校、梼原中学校（9 年間）
- 広島聖光学園（6 年間）
- 梼原町西町で開業して ２１年目

宮本さんが担う現在の役割

- 西町部落副代表
- 梼原町身体障害者連盟会長
- 梼原町三障害団体（三笑会）会長
- 梼原町身体障害者相談員
- 梼原町スポーツ推進員
- はりきゅうマッサージ業の自営など幅広く活躍

幼少期

当時は、母も必死だったと思う。よく叱られたし、今だったら虐待だととらえられるかもしれないけれど、できない事を障がいのせいにする息子に腹が立っていたのではないか・・・と、今になったら思う。

夜は、遅くまで勉強に付き添ってくれたのを覚えている。地域の人からも「とも君」と、可愛がってもらった。

家 族

自分が意識して実践している『障がい者同士の助け合い』を実践していると、時には悩むこともあるけれど、自分ができること・正しいと思うことは、これまで通り継続して（手伝って）いこうと思っている。

「しんどいなぁ。」と思う時、父は励ましてくれ、背中を押してくれる。

幼いころは、自分に障がいがあると意識したことはなく、いじめられたこともなかった。

小学校では常に一番前の席だったので後ろの席にあこがれていたが、後ろに行くと字が見えにくいのは感じていた。

小学校３年生のころから、友人との学力の差に気づきはじめた。３０名を５班に分けたクラスでは、班ごとに成績や生活態度・忘れ物の有無を競い合っていた。放課後に勉強を教えてもらうなど、いつも助けてもらった記憶があり、同級生にはとても感謝している。友達を見捨てない。できる子ができない子を囲んで教える。そんな環境だった。

【同級生に当時のことを聞いてみた】

町内在住、小学校時代の同級生は当時のことを「私らあ、何かしたろうか？感謝されるような特別なことはなんちゃあ覚えてないんやけど。」と振り返る。「私たちにとっては、それが普通だった。そんな私らあがすごかったがやろうかねぇ。」と、幼少期をさらっと笑顔で語ってくれた。

恩 師

小学校の先生からは、放課後や夏休みに補習をしてもらった。今じゃあ考えられんけど、３年生から６年生までは、先生の家に行って勉強を教えてもらうこともあった。

また、校長先生には「中学校から寮に入った方がこれからのためになるよ。」と勧められ、（本当はいややったけど）寮生活をすることになった。寮では先輩に優しくしてもらい、みんなと楽しく過ごせた記憶がある。ここで集団生活のルールを学び、「自分のことは自分でする。」という生活の土台ができた。

その後、広島聖光学園（視覚障害者あんま・マッサージ・指圧・鍼灸養成施設）に入学し、自分よりずっと重度の（全盲・強度の弱視）障がい者をみて衝撃を受けたのを覚えている。６年間の学びで得た学園の理念でもある『障がい者同士の助け合い』の精神が、現在までの自分の行動の規範になっている。

現 在

子どもの頃、厳しい中にも愛情があった。たくさんの人に助けてもらった喜びから自分が幸せな気持ちになれた。だからこそ、次は自分が弱い人の気持ちになって助けてあげることが大事で、一人一人がかけがえのない存在だと思っている。

生きづらさを感じている人はたくさんいると思う。障がいがある人もない人も、それぞれの価値観を認め合う事。

まだまだ時間がかかるかもしれないけれど、問い続けることが大事だと思っている。

障害があってもなくても … でも …。

宮本さんがこれまでに出会った人々とのかかわりの中に、今話題の『地域共生社会』の原点をみました。

その中に、家族の絆、子どもを見守り育む地域の力、同級生や多くの専門職の導きの中での学びの尊さ、梼原町の暖かさを垣間見ました。この気づきを大切にし、さらに違った視点から『地域共生社会』を見つめて発信していきたいと思います。

今後、少子高齢化に伴う支え手の減少やニーズの多様化に対応しつつ、住み慣れた梼原で支え合いながら生活していくために、できる事を一緒に考えましょう。

社協は、さまざまな分野に身を置く皆さまにお話をお聴きしながら、地域共生社会の考え方やつながり、支え合いのありかたについて皆さまと共に学び考え、理解を深めていきます。
この話題についてのご意見・ご要望のあるかたは、社協窓口までお声掛けください。

輝く梼原人！み～つけたっ👀！

in 東区

小学生から高齢者まで気になる存在となっている「つかはら夫婦」地域の方からも取材してほしいと依頼もあり、ご夫婦の移住生活についてお話を伺いました。

塚原（つかはら）　こなつさん（29）　塚原（つかはら）　壮太（そうた）さん（31）

兵庫県出身。大阪で生活していたが、昨年８月に梼原へ移住し、高知や梼原の田舎暮らしについて YouTube やラジオなどで発信している。

都会にはない梼原町の人のあたたかさ

緊急事態宣言解除後の６月下旬に初めて梼原町を訪れ、役場の方に案内していただきました。大阪に住んでいたので、ギャップを感じてしまうのではないかと不安が大きかったです。しかし、役場の方から梼原町の良いこと・不便なこともありのままを教えていただけたので、当初の不安が解消され移住したい気持ちがより一層強くなりました。町を歩いているだけで、子どもや地域の方が挨拶してくれて大阪に住んでいたころにはありえないことだったし、近隣の方もとても優しくて、**梼原町の“人”に惹かれて移住を決めました！！**

移住してからも梼原の人はコミュニティの距離が近くて、気さくに声をかけてくださいます。ご近所の方からおすそ分けを頂いたり、一緒にお酒を飲んだり気にかけてもらえたのが嬉しかったです。また SNS で梼原へ移住したことを発信すれば「自分も梼原に住んでいるよ～」とやり取りがはじまり、それをきっかけにお宅に呼んでもらえるようになるなど、梼原の人のあたたかさを何度も感じています。

新しいところで新しいことをする

移住するにあたって情報収集のために、日ごろからよく観る YouTube で検索したところ地方移住の情報がほとんどなく困っていました。地方移住は今後さらに盛り上がるだろうと考えており「ならば自分たちが発信する側になろう！」と YouTube での発信を始めました。現在は移住して感じたことや暮らしの日常を中心に発信しています。まだまだ未熟ですが、今後は町のことをより深く知り、貢献できるような活動をしていきたいと考えています。

自分たちに合った暮らしを求めて

新型コロナウイルスがきっかけで生活を見つめ直した結果、梼原町への移住を決断しました。

当時の僕の働き方は、満員電車に揺られ出勤し、夜は飲み会ばかりの日々でした。

その結果、夫婦で過ごす時間はほとんどなく、夜は妻と顔を合わすこともないすれ違いの生活でした。

そんな矢先、コロナの影響で、全社員が在宅勤務となり、今までなかった夫婦の時間を共有できるようになり将来のことを話す時間が増えました。

在宅勤務を経験した事により、パソコン１つでどこでも働ける環境を知り、都会を離れ移住する決断をしました。

夫婦ともに食べること飲むことが大好きなので食の豊富な高知県が良いと思い、その中でも大自然の中で暮らせる梼原町に興味が湧きました。

さあ 防災力を高めよう

防災・減災の情報発信コーナー

災害対策の基本は「自助」だが…個々人の力には限界がある。

地域の防災力を高めるには、協力してあたることが必要。→「共助」

たとえば・・・

- 家具の転倒防止など比較的容易と思われる対策も、高齢者の世帯などでは自力で行うことが困難な場合も。
- 発災時には、地域で協力して被害を最小限に抑えたり、被災した人を救助することが必要になる。
- 出火の初期消火は、消防の手がまわらないことが想定されるので、近隣の人々同士の協力が必要になる。
- 倒壊した家屋からの救助は一刻を争う。被災後に一定時間が経過すれば公的援助やボランティアの支援も期待できるが、発災直後の救助はまわりにいる人にしかできない。

そのためにも・・・

日頃から部落会や自主防災組織において防災訓練を行い、いざというときに協力して対策にあたることができるような体制をつくっておくことが重要です。

「共助」そのことが・・・地域の多くの人の命を救うことにつながります。

毎月１日と１５日には、災害用伝言ダイヤル『171』が無料でお試しができます。これを利用して、家族・親戚・友人・知人（町外・県外の人もまきこんで）と安否確認の練習をしてみましょう。わからないことは社協にお問い合わせください。

地域支えあい活動　つむぎあい とは

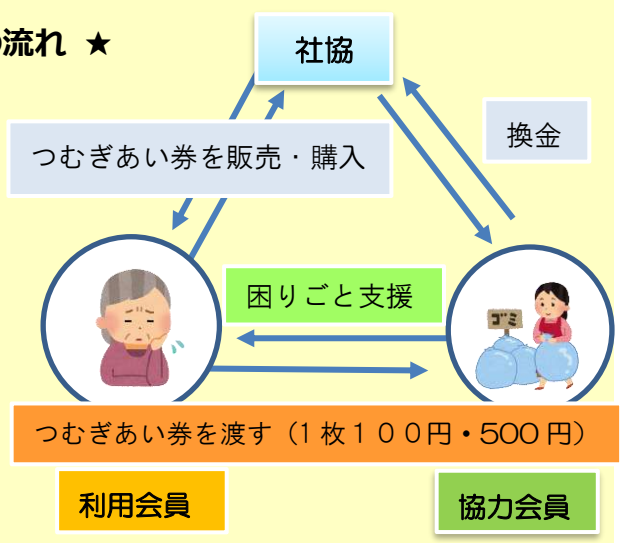
日常生活での小さな困りごとを地域で支え合う仕組みです

この仕組みは、『つむぎあい券』という１枚 100 円と 500 円の 2 種類の地域通貨をつかった有償ボランティアです。
日常生活の中での小さな困りごとを誰かにお願いしたいけど「申し訳ない・・。」と思って悩んではいませんか？
そんな時、社協にご相談ください。丁寧にお話を伺い、有償ボランティアさんとつなぎます。秘密は守ります。

★「つむぎあい」利用の流れ ★

会員は利用会員と協力会員です。利用会員は支援を希望する方でおおむね高齢者や障害のある方、協力会員はボランティアとして社協に参加登録される方です。利用会員、協力会員両者の同意により決定されます。

詳しく知りたい方や「紹介したい人がおるよ。」という方は、お気軽に社協職員へお声かけください。



令和３年度　事業計画・当初予算

事 業 計 画

● 法人運営事業

理事会･評議員会の開催

● 相談援助活動

日常生活自立支援事業
生活困窮者自立相談支援事業
法人成年後見事業
生活福祉資金貸付事業

● 地域福祉の推進

安心生活基盤構築事業
地域福祉コーディネーター活動
　○ 地域活動
　（困り事の早期発見と課題解決）
　○ 集いの場への参加
　（地域力の維持と継続への後方支援）
福祉教育
　○ 椿原学園高齢者疑似体験
赤い羽根共同募金助成事業
　○ 地域活動推進事業
　○ 無料法律相談

● 住民参加の福祉活動の推進

つむぎあい（地域支えあい活動）
リユースゆすはら（休眠資源活用事業）
お元気発信（高齢者の自発型安否確認）

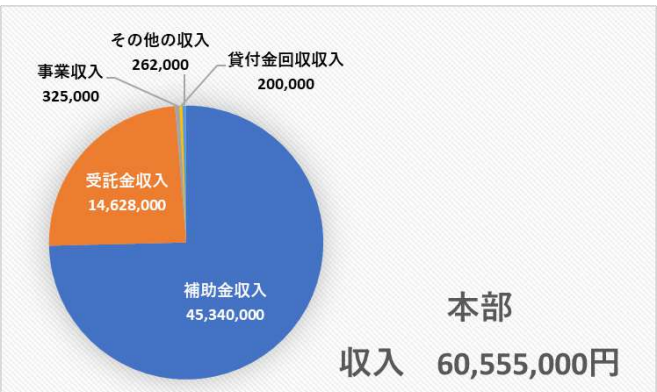
● 各種団体の活動支援　団体事務局

椿原町老人クラブ連合会
椿原町身体障害者連盟
椿原町共同募金委員会

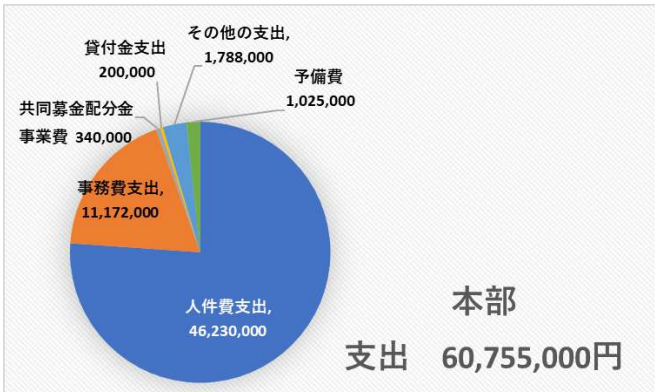
● 施設運営　複合福祉施設 YURURI ゆすはら

デイサービスゆるり
　○ 食事･入浴･レクリエーション活動
　○ 健康チェック･ 機能訓練
ケアハウスゆるり
　○ 食事･入浴･レクリエーション活動
　○ 健康管理･機能訓練
高齢者生活支援ハウス
　○ 生活援助
フィットネス・町民交流室の運営管理

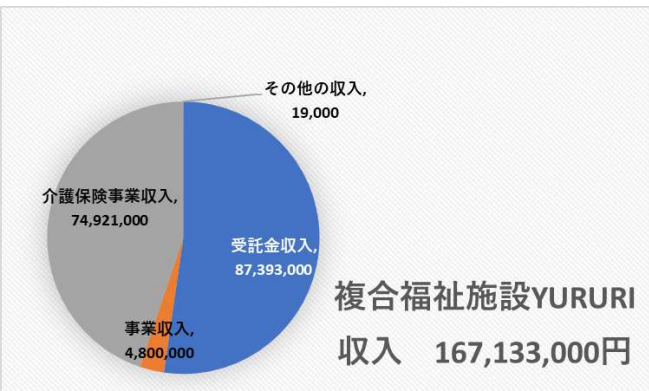
当 初 予 算



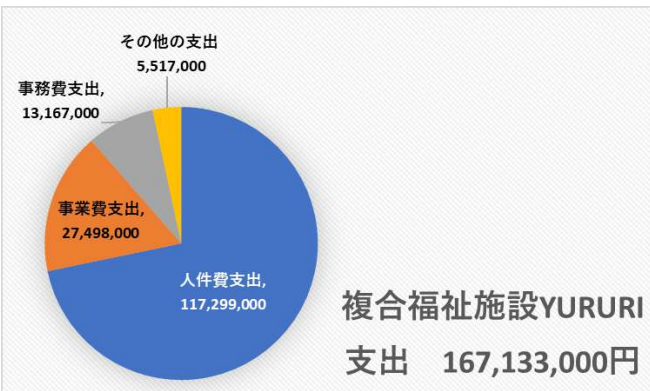
本部
収入　60,555,000円



本部
支出　60,755,000円



複合福祉施設YURURI
収入　167,133,000円



複合福祉施設YURURI
支出　167,133,000円

リユースゆすはら (休眠資源再活用事業)

ご家庭に「ゆずってほしいな」「誰かに使ってほしいな」というものはありませんか？
貴重な資源に新たな活躍の場が見つかるよう社協がお手伝いさせていただきます！

お知らせ

「ゆすまいる」が季刊発行となるため、リユースのお知らせは奇数月に「ゆすまいる」、または全戸配布で行うこととなりました。
ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。

この中で ほしいもの ありませんか？

5/10 抽選を行います。以降は順次マッチングいたします。

キッズ
- 子ども用チェアー
- おまる
- リコーダー
- 子ども用布団
- 子ども用浴衣（花柄・蝶柄）

家具家電
- 冷凍庫
- 木製の机
- 温風機
- こたつ
- 照明の傘
- ガスコンロ
- 風呂給湯器（ガス）

その他
- 日傘
- ものさし
- エプソン IC50 互換インク
- 大人用紙パンツ（L～LL サイズ）
- ダウンジャケット（Mサイズ）
- AAA （CD と楽譜）
- 婦人服

健康
- 踏み台
- ウォーキングマシーン
- バランスボール（青）

食器類
- 食器、タッパー、鍋など
- すし桶（大・小）

物品の写真が QR コードで確認できるようになりました

この中にお家で使ってないものありませんか？ 是非、ゆずってください！！！

福祉用品
- 血圧測定器

農機具
- コンテナ
- お茶もみ機

電化製品
- 石油ストーブ
- ノートパソコン
- コーヒーバリスタ
- 炊飯器
- オーブンレンジ
- レコードプレイヤー
- CD、ラジカセプレイヤー
- 扇風機
- 電動巻き割り機
- 洗濯機

こども用品
- ハイローチェア
- ベビーフェンス
- チャイルドシート（１歳から用）
- 子ども用紙おむつ（L サイズ）

その他
- 風呂ボイラー薪兼用（小さいサイズ）
- 管理機
- 大型シンクと調理台
- 自転車
- バランスボール
- ランニングマシーン
- 石臼
- 一輪車
- バイク（ヤマハ、ホンダ）
- globe ライブ DVD
- 手動もみまき機
- 土瓶
- カラオケ本（新品）
- 花瓶（筒形）
- 毛糸
- リクライニング付ベッド
- 本棚
- 薪ストーブ
- 火鉢
- ホワイトボード

（日間予定）

お問合わせ：栫原町社会福祉協議会 ☎65-1235 担当 川田

Cover's Story 1. ~表紙の写真に関するエピソード紹介~

『仲久保：お堂の前でなかよし お爺さんとお婆さん』

初瀬区仲久保にお住まいの下村道子さんより情報提供いただきました。

仲久保集会所の隣のお堂はきれいに手入れされており、地域の皆さんが気軽に立ち寄れる場所となっています。
この日も、地域の仲良しご夫婦が田んぼ仕事の合間にひと休みしているところでした。
そこへ通りかかった地域の担い手が談笑に加わり、にぎやかなひとときを過ごしました。
当然のことながら、季節が変わると、ご夫婦の衣装も変わるのだそうです。

Cover's Story 2. ~表紙の写真に関するエピソード紹介~

『赤鬼さん、青鬼さん、福の神さん』

２月２日の節分の日。この日は朝からこども園の園児は、なんとなくワクワク、そわそわ。（よくわかっていないお子さんもいたかと思いますが。）
実はこの赤鬼と青鬼は商工会青年部の皆さんです。例年１月に園児と一緒にお餅つきをしていたのですが、今年は新型コロナ感染も考慮し、実施できなくなったため、他に何か関われることがないかなと考え、豆まきに参加されることになりました。
鬼たちに向かって果敢に豆を投げる子、抱っこされて大泣きする子もいましたが、最後は商工会女性部の皆さんが福の神に扮して来てくれたので、子どもたちも一安心。商工会青年部と女性部の皆さんお疲れ様でした。
今後も青年部や女性部が担っていけることや取り組みを考えていきたいとのことでした。また、その際にご紹介させて頂きます。

あとがき

今年度も『ゆすまいる』をご覧いただき、ありがとうございました。
また、地域の皆さまから掲載する写真や情報などもお寄せいただき、重ねてお礼申し上げます。
次号からの『ゆすまいる』は**季刊（夏→秋→冬→春の順）**となります。皆さまから頂くご意見やご要望を取り入れながら、内容盛りだくさんでお届けできればと思っています。
引き続きよろしくお願いいたします。

＊広報担当＊
橋本久美　土釜知佐　渡邊和代
前田京子　川田沙月

法律相談・講演会（令和３年度開催予定）

（赤い羽根共同募金配分金事業）

◆法律講演会（会場　夢・未来館）
５月１６日（日）午後１時～
講師　法テラス須崎　武内良平弁護士

◆無料法律相談会（会場　梼原町社協）
６月６日（日）
１１月２１日（日）
令和４年１月３０日（日）
※いずれも正午～午後４時
相談時間　４０分（各５名）

法テラス須崎法律事務所
武内良平弁護士　小野　歩弁護士

須崎ひまわり基金法律事務所
三上翔平弁護士

発行元：社会福祉法人　梼原町社会福祉協議会　住所：高知県高岡郡梼原町川西路 2321－1
発行責任者：樋口 益也　電話：0889－65－1235　ホームページ：https://www.yusuhara-shakyo.jp/